

## 2. 東京の目指す姿

### (1) 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会のコンセプト

2011年、東京都は「2020年の東京」<sup>27</sup>を策定し、東日本大震災後の東京を取り巻く環境の変化に注目しつつ、東京を「21世紀にふさわしい世界の範となる都市」<sup>28</sup>に成長させることを目指すとした。この姿を実現するために、東京都は8つの目標を設定したうえ、具体的な政策展開を図るとしている。そのうちの「目標8 誰もがスポーツに親しみ、子どもたちに夢を与える社会を創る」について、具体的な政策展開として2020年オリンピック・パラリンピック競技大会の招致・開催を掲げたうえ、都民のみならずオールジャパン体制で取り組んでいくことを目指すとした。

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のビジョンは「2020年の東京」と一体となって進められているものである<sup>29</sup>。また、「都市の中心で開催するコンパクトな大会」という大会コンセプトは、1964年大会時のような大規模なインフラ整備を行わず、既存のインフラの活用を前提としており、「長期的な都市戦略を後押しし、一層加速させるため、東京都や国との綿密な協議を重ねて作られた」<sup>30</sup>ものである。この大会コンセプトはスポーツ、交通、都市景観、ユニバーサルデザインや環境という5つの分野において「2020年の東京」の方向性と整合性がとれている。2020年オリンピック・パラリンピック競技大会招致・開催は、東京の目指す姿を実現するための契機であるといえる。

---

<sup>27</sup> 「2020年の東京」は2011年に東京都が策定した中長期都市戦略であり、2020年に向けた目標とそれを実現するための施策を具体的に示している。

<sup>28</sup> 東京都「2020年の東京」(2011年)

<sup>29</sup> 東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会「立候補ファイル」(2013年)

<sup>30</sup> 東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会「立候補ファイル」(2013年)

図表 2-8 2020 年東京大会のコンセプト

2020 年東京大会のコンセプトは、東京都の中長期的な都市戦略である「2020 年の東京」の実現に向けた取り組みと方向性が一致している。

「2020 年の東京」は、2016 年大会招致を行っていた 2006 年に発表した「10 年後の東京」の理念を継承しつつ、これを充実・強化している。

「2020 年の東京」の根底にあるのは、東京を、21 世紀にふさわしい都市へと進化させるということである。

「2020 年の東京」に掲げる 8 つの目標のひとつである「誰もがスポーツに親しみ、子どもたちに夢を与える社会を創る」の実現に向け、スポーツの力の重要性が認識されている。

2020 年東京大会は、次の事項を達成するためのプロセスであり、ゴールでもある。

- ・ 2020 年東京大会のオリンピックスタジアム周辺、東京ベイゾーンの臨海地区、武蔵野の森地区、1964 年東京大会の競技会場も残る駒沢地区を中心にスポーツクラスターを整備し、スポーツを楽しむことができる活気ある環境を生み出す。
- ・ すでに高度に発達している東京の道路網を強化し、持続可能な大都市のモデルとして更なる成熟を目指す。首都圏の主要な幹線道路となる三環状道路は、都心への流入交通を減らし、競技会場が配置される都心部の交通渋滞の解消に重要な役割を果たす。また、選手村やオリンピックスタジアム、IBC/MPC が配置される東京ベイゾーン周辺等において主要幹線道路の整備が進められていることも特筆すべき改善点のひとつである。空路の面においても、選手村まで 16 km に位置する東京国際空港（羽田空港）が強化される予定であり、2013 年度末までに年間の発着容量を 44.7 万回まで増加する計画である。
- ・ 水と緑のネットワークを次世代に受け継いでいく。これには、都市公園など 433ha の整備が含まれる。都民や住民グループの協働により湾岸の埋立地から生まれ変わる 88ha にも及ぶ「海の森」は、2016 年に概成予定である。また、街路樹 100 万本による直径 30 km の緑のリングは、「グリーン・ロード・ネットワーク」を形成することとなる。
- ・ 住み訪れる人が、安心・快適に過ごすことができるよう、ユニバーサルデザインのまちづくりを推進する。2020 年までには、ノンステップバスの導入や、駅や公共施設、病院等を結ぶ道路のバリアフリー化を完了させることを目指している。
- ・ 低炭素で高効率な自立・分散型エネルギー社会を創出する。

オリンピック・パラリンピック大会は、成熟を遂げた東京がさらに機能的で魅力的な大都市へと変革を遂げるための優れた契機となるであろう。

資料) 東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会「立候補ファイル」(2013年)

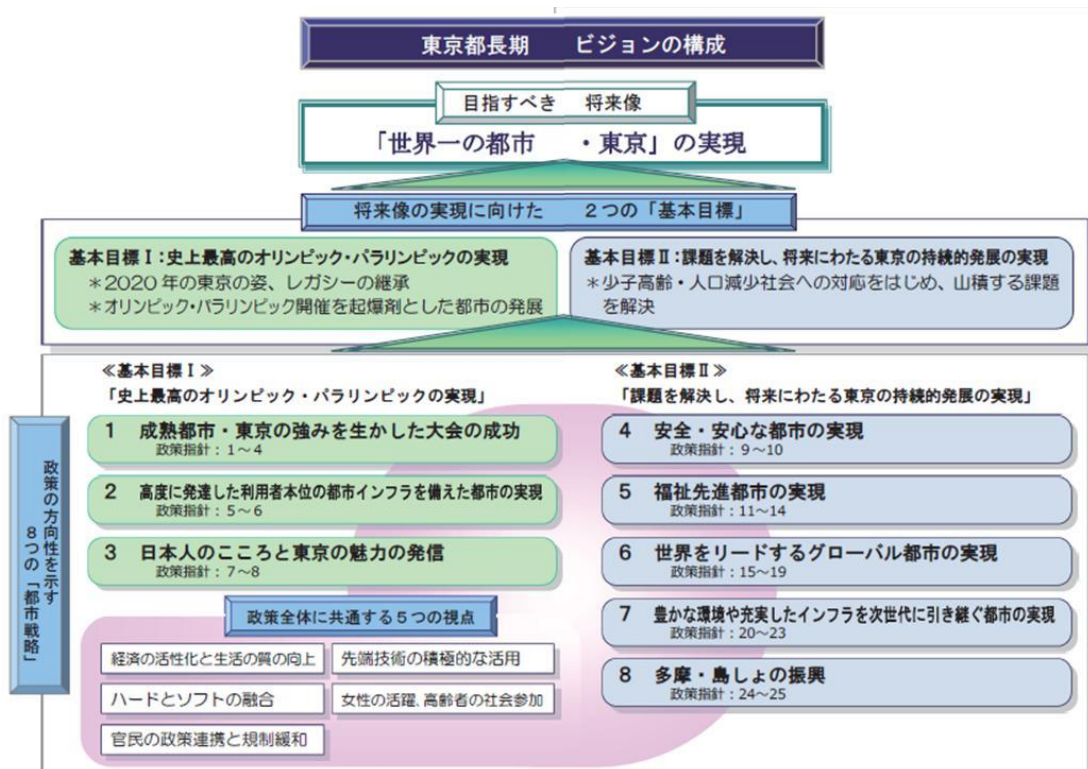
## (2) 東京都長期ビジョン

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催決定に伴い、東京都は「2020年の東京」をふまえつつ、新たな長期都市戦略である「東京都長期ビジョン」を2014年に策定した。

「東京都長期ビジョン」では、世界一の都市を目指すことを宣言し、「2020年の東京」で示された「21世紀にふさわしい世界の範となる都市」という将来像よりも高い目標を設定した。

世界一の都市という将来像の実現に向けて、東京都は、「史上最高のオリンピック・パラリンピックの実現」及び「課題を解決し、将来にわたる東京の持続的発展の実現」という2つの基本目標を掲げている。前者は将来像を実現するための起爆剤ともいえるのに対し、後者は文字通り東京の持続的な発展を実現するために解決すべき課題である。

図表 2-9 東京都長期ビジョンの構成



資料) 東京都「東京都長期ビジョン」(2014年)

「東京都長期ビジョン」は「2020年の東京」と大きく異なる点として、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の招致成功に伴って大会の実現が東京都長期戦略の基本目標の1つとなったことがあげられる。同基本目標を実現するためには図表 2-10に示す3つの都市戦略と8の政策指針を打ち出している。

図表 2-10 史上最高のオリンピック・パラリンピックを実現するための都市戦略と政策指針

- 都市戦略 1 成熟都市・東京の強みを生かした大会の成功
  - ・政策指針 1 2020 年大会の成功に向けた万全な開催準備とレガシーの継承
  - ・政策指針 2 美しく風格があり、誰もが安心して過ごせるバリアフリー環境の構築
  - ・政策指針 3 多言語対応の推進により、全ての外国人が快適かつ安心して滞在できる都市の実現
  - ・政策指針 4 世界に存在感を示すトップアスリートの育成とスポーツ都市東京の実現
- 都市戦略 2 高度に発達した利用者本位の都市インフラを備えた都市の実現
  - ・政策指針 5 陸・海・空の広域的な交通・物流ネットワークの形成
  - ・政策指針 6 誰もが円滑かつ快適に利用できる総合的な交通体系の構築
- 都市戦略 3 日本人のこころと東京の魅力の発信
  - ・政策指針 7 「おもてなしの心」で世界中から訪れる人々を歓迎する都市の実現
  - ・政策指針 8 芸術文化都市を創造し、日本文化の魅力を世界に発信

資料) 東京都「東京都長期ビジョン」(2014年)

図表 2-11 将来にわたる東京の持続的発展を実現するための都市戦略と政策指針

- 都市戦略 4 安全・安心な都市の実現
  - ・政策指針 9 災害への備えにより被害を最小化する高度な防災都市の実現
  - ・政策指針 10 日常に潜む危険や犯罪から都民を守る、安全・安心の確保
- 都市戦略 5 福祉先進都市の実現
  - ・政策指針 11 安心して産み育てられ、子供たちが健やかに成長できるまちの実現
  - ・政策指針 12 高齢者が地域で安心して暮らせる社会の実現
  - ・政策指針 13 質の高い医療が受けられ、生涯にわたり健康に暮らせる環境の実現
  - ・政策指針 14 障害者が地域で安心して暮らせる社会の構築
- 都市戦略 6 世界をリードするグローバル都市の実現
  - ・政策指針 15 日本の成長を支える国際経済都市の創造
  - ・政策指針 16 都心等の機能強化による東京の都市力の更なる向上
  - ・政策指針 17 若者や女性、高齢者など全ての人が活躍できる社会の実現
  - ・政策指針 18 東京、そして日本を支える人材の育成
  - ・政策指針 19 2020 年大会の成功と東京の発展に寄与する都市外交の推進
- 都市戦略 7 豊かな環境や充実したインフラを次世代に引き継ぐ都市の実現
  - ・政策指針 20 スマートエネルギー都市の創造
  - ・政策指針 21 水と緑に囲まれ、環境と調和した都市の実現
  - ・政策指針 22 都市インフラの安全性を高め、安心できる社会の確立
  - ・政策指針 23 少子高齢・人口減少社会におけるこれからの都市構造

■都市戦略8 多摩・島しょの振興

- ・政策指針 24 多摩・島しょ地域の発展・成熟したまちづくりに向けた環境整備の推進
- ・政策指針 25 多摩・島しょの豊かな自然を生かした地域の活性化

資料) 東京都「東京都長期ビジョン」(2014年)

基本目標 I と立候補ファイルとの対応関係をみると、スポーツ、交通、ユニバーサルデザインは基本目標 I を実現するための政策指針として言及されているが、都市景観や環境は基本目標 II で述べられることとなっている。一方、オリンピック・パラリンピックに関連する政策指針としてレガシー、観光や文化はより強調されるようになっている。

図表 2-12 立候補ファイルと東京都長期ビジョンにおける基本目標 I との対応関係

	東京都長期ビジョン	立候補ファイル
都市戦略 1	■ 政策指針1 2020 年大会の成功に向けた万全な開催準備とレガシーの継承	レガシー (スポーツ、環境、安全・安心、文化・教育)
	■ 政策指針2 美しく風格があり、誰もが安心して過ごせるバリアフリー環境の構築	ユニバーサルデザイン
	■ 政策指針3 多言語対応の推進により、全ての外国人が快適かつ安心して滞在できる都市の実現	観光
	■ 政策指針4 世界に存在感を示すトップアスリートの育成とスポーツ都市東京の実現	スポーツ
都市戦略 2	■ 政策指針5 陸・海・空の広域的な交通・物流ネットワークの形成	交通
	■ 政策指針6 誰もが円滑かつ快適に利用できる総合的な交通体系の構築	交通
都市戦略 3	■ 政策指針7 「おもてなしの心」で世界中から訪れる人々を歓迎する都市の実現	観光
	■ 政策指針8 芸術文化都市を創造し、日本文化の魅力を世界に発信	文化

資料) 東京都「東京都長期ビジョン」(2014年) より三菱UFJリサーチ&コンサルティング作成

(3)2020 年に向けた東京都の取組—大会後のレガシーを見据えて—

東京都は 2015 年 12 月に「2020 年に向けた東京都の取組—大会後のレガシーを見据えて—」を策定した。その目的、視点等は以下のとおりである。

(目的)

東京 2020 大会後のレガシーを見据えた東京都の取組を明らかにすることにより

○大会を通じて価値あるレガシーを残していくための取組を、2020 年に向けて着実に進めていきます

○大会に向けた東京都の取組を明らかにすることにより、都民の皆様が大会に関わりを持ち、参加していただくきっかけづくりとします

(3つの視点)

○東京に

東京 2020 大会を起爆剤として、成熟都市・東京をさらに発展させ、ゆとりある真に豊かな都民生活を実現します

○日本へ

オールジャパンで大会を成功に導き、経済の活性化や被災地復興の後押しなど、大会の効果を日本全国へ波及させます

○そして世界に向けて

水素社会の実現に向けた先進的な取組や、東京、日本の高度なテクノロジー、東京のブランド力などを、東京が日本のショーウィンドウとして世界に向けて発信するとともに、大会を機に世界との交流をさらに深めていきます

(2 回目のパラリンピック)

パラリンピックを通じて誰もが暮らしやすい東京を実現します

これら目的等のもとで、以下の8つのテーマに即して、大会後のレガシーを見据えた2020年までの東京都の取組を明らかにし、年度ごとの行動計画を定めている。

(8つのテーマ)

1 競技施設や選手村のレガシーを都民の貴重な財産として未来に引き継ぎます

2 大会を機に、スポーツが日常生活にとけ込み、誰もがいきいきと豊かに暮らせる東京を実現します

3 都民とともに大会を創りあげ、かけがえのない感動と記憶を残します

4 大会を文化の祭典としても成功させ、「世界一の文化都市東京」を実現します

5 オリンピック・パラリンピック教育を通じた人材育成と、多様性を尊重する共生社会づくりを進めます

6 環境に配慮した持続可能な大会を通じて、豊かな都市環境を次世代に引き継いでいきます

7 大会による経済効果を最大限に生かし、東京、そして日本の経済を活性化させます

8 被災地との絆を次代に引き継ぎ、大会を通じて世界の人々に感謝を伝えます